

## 18 Extra Target 1

### 他己紹介に挑戦!

英語監修・出演 阿野幸一

**きょうの目標** 自分が関心のある人や物について説明することができる

- いつのことかを伝えるには
- 自分の考えを伝えるには

**文法・表現** 接続詞 when, that

#### いつのことかを伝えるには

次の文の意味を考えてみましょう。

Charlie Chaplin came to this hotel.

(チャーリー・チャップリンがこのホテルに来ました)

チャップリンがこのホテルにやってきたという事実を伝える文です。しかし、この文を聞いただけでは、チャップリンがいつホテルに来たのかがわかりません。はるか昔にやってきたのか、最近やってきたのかがわからない文になっています。そこで、チャップリンがいつ来たのかを伝えるために、**when** を使って「来たとき」の情報を表す文を追加することができます。

Charlie Chaplin came to this hotel when my great-grandfather was the manager of this hotel.

(私のひいおじいさんがこのホテルの支配人だったときに、チャーリー・チャップリンがこのホテルに来ました)

この文は、「チャップリンがこのホテルに来ました」という文に、**when** 以下の「私のひいおじいさんがこのホテルの支配人だったときに」という追加情報を補って、意味のある文にしています。この **when** は、「Charlie Chaplin came to this hotel.」という文と「My great-grandfather was the manager of this hotel.」という2つの文をつなぐ役割をしているため、接続詞として使われています。

もう1つ別の文を見てみましょう。

I was taking a bath when you called me last night.

(あなたがきのうの夜、私に電話をくれたとき、私はお風呂に入っていました)

この文の前半の文「I was taking a bath」(私はお風呂に入っていました)は過去進行形という形で、過去のある一点の時間にしていたことを伝える文です。ここでは、「きのうの夜あなたが私に電話をくれたとき」という過去の一点を明示する **when** 以下の文が続くことで、

このページ掲載の文章・画像の無断転載を固く禁じます。

意味のある文になっています。

なお、**when** で2つの部分をつなぐ際に、**when** で始まる部分を文の後半に置くこともできますが、**when** で文を始めることもできます。ただし、英語では文の後半に相手にとっての新しい情報や強調したい情報を伝えるという原則があるため、多くの場合、次のようなニュアンスの違いがあります。

**I was taking a bath when you called me last night.**

(私はお風呂に入っていたんだ、きのうの夜、君が電話をくれたときのことだけどね)

**When you called me last night, I was taking a bath.**

(きのうの夜、君が電話をくれたときだけど、あのとき私はお風呂に入っていたんだ)

なお、どの部分を強調して発音するかによっても、ニュアンスは変わり、上記の原則通りではないこともあります。

### 自分の考えを伝えるには

自分の考えを伝えるには、**I think** (私は思います) の後に **that** を置き、その後に「どう思うか」という内容を表す文を続けて表現することができます。次の文で確認しましょう。

**I think that baseball fan in Japan and the US truly like Ichiro.**

(日本とアメリカの野球ファンは、本当にイチローが好きなのだと私は思います)

**I think** だけでは、「どう思っているのか」という内容が欠けていて伝える情報が不十分なため、**that** 以下の文を続けることで、情報を補って完結する文にしています。そしてこの **that** も、“**I think**” と “**Baseball fan in Japan and the US truly like Ichiro.**” という2つの文をつないでいるため、接続詞として使われています。

なお、この **that** は、文と文をつなぐ役割をしていますが、**that** 自体が意味を伝えるわけではないため、省略して次のように表現することができます。

**I think baseball fan in Japan and the US truly like Ichiro.**

特に口語では多くの場合、接続詞の **that** は省略されます。



## あの先生のこの話!



## 西暦の読み方

西暦の読み方の原則は、2桁ずつに分けて以下のように読みます。

1973 → 19 (nineteen) 73 (seventy-three)

ただし、2001年以降2009年までは、まず2000 (two thousand) と言った後に、下1桁の数字を続けるか、20 (twenty) と言った後に o (ou) と発音してから最後の数字を発音します。例えば、2004年は以下のように2通りで読むことができます。

2004 → 2000 (two thousand) 4 (four)

→ 20 (twenty) 0 (ou) 4 (four)

これは、2004年を2桁ずつに分けて読むと、24 (twenty-four) と同じ発音になってしまうためです。

しかし、2010年からは、原則通り2桁ずつに分けて以下のように読むことが多くなってきました。

2010 → 20 (twenty) 10 (ten)

2017 → 20 (twenty) 17 (seventeen)

このように西暦には複数の読み方があるので、聞いたときに理解できるように整理しておきましょう。